2018年 秋号

僧伽

第 103 号
僧伽編集委員会
〒921-8031
金沢市野町 2 丁目32-4
徳法寺内
TEL (076) 241－5219
題字　本多　千翠

「自分自身のいないところに仏さまはいない」

平野　修

平野　修：九州大谷短期大学教授を務めるかたわら、後進の指導にも力を尽くす。一九九五年五十一歳で示寂

横山大観、生誕一五〇年に想う

常徳寺　西山　彰

この夏、記録的豪雨に見舞われた京都は、その痕跡も消せないまま祇園祭を迎えようとしていた。そんな折、私は横山大観展を見る機会を得た。

写真は、「曳船（ひきぶね）」と題された横山大観の三十三歳の時の作品である。私はこの初期の作品に心惹かれるものがあった。ここでは当時の伝統を根底から覆す革新的な手法がもちいられている。それまでの日本の絵画は、線で表現することを基本としたが、大観らを中心とした画家たちは、線を捨て面で表現する方法を見出したのだ。

この作風は、「空気を表現するにはどうすればよいか」という、岡倉天心の禅問答のような課題に応えたものだと言われている。天心は、明治期において、驚くほど豊かな国際感覚を持った知識人だった。また筆を持たない天才芸術家とも呼ばれ、多くの画家たちの理論的支柱となった。東京美術学校（のちの東京芸術大学）を創立し、初代校長を務めた人物でもある。

天心に率いられたグループは、明治三十七年、いきなりニューヨークに作品を持ち込むという驚くべき行動に出た。そして大成功を収めた。大観たちの作品は、当時ヨーロッパで隆盛を極めていた印象派に対抗しうる東洋の芸術として称賛されたのだ。

しかし、日本国内においては、これら実験的作品は不評だった。全体がぼんやりとして焦点が定まっていないという意味で、「朦朧体（もうろうたい）」と揶揄（やゆ）されたのである。

時代は流れ、再び横山大観が注目を浴びるようになるのは昭和初期であった。太平洋戦争を前に、国威発揚のために彼の絵は大いに利用されたのだ。残念なことだが、大観自身も積極的な戦争協力を惜しまなかった。このときすでに師匠岡倉天心はこの世を去っていた。

猛暑の中、私はあらためて、変幻自在に画風を変化させていった巨匠の八十九年の生涯に思いを巡らせた。そもそも横山大観とはいったい何者であったのだろうか。私は、岡倉天心に導かれた「朦朧体」の作品群にこそ、彼の真骨頂があると思った。ここにこそ、時代にも国家にも迎合しない高い志がある。そして世界に通用するゆるぎない日本の美があると確信した。

そんな思いを古都の祭囃子の音が飲み込んでいった。

村上佳子

繋がって生きる

朝になり玄関を開けて見渡せば、そこには白山連峰が。「なんて美しいのだろう。」おもわず手を合わせて拝みたくなる。石川県小松市の古民家を購入し、血縁関係のない友人家族と二世帯でシェアする暮らしは、この九月で二年になった。今年六月には、そのシェアハウスの一室で「くじら助産院」を開業。私にとって助産院の開業は、助産師となった二十代のころからの夢であり、四十歳目前になって白山が綺麗に見える土地にご縁があり、実現に至ったのであった。

群馬県で生まれた私が、小松市で助産院を開くようになったのは、二〇一一年三月十一日が大きな転機であった。

福島原発事故が起きた時、私は地元で二人目を出産したばかり。原発からちょうど二〇〇㎞の距離に住んでいた私は、「放射能って何？原発って何？」と知識がない中で、ただ直感を頼りに夫の両親が住む金沢へ子ども達を連れて十日間一時避難した。群馬に戻ってからは、医療系の知り合いが何家族か四国や九州へ移住していく様子を見て、「離れている群馬でも移住を考えなくてはいけないのだろうか？」と必死に情報を集める日々が続いた。迷いが続く日々の中でも、次女はどんどん成長していき、家の中を這うようになり、手に埃をつけては舐めるように。四歳の長女は、泥んこ遊びや、どんぐりを茂みの中から見つけては嬉しそうに持ってくる。だが、私は、放射能の人体に与える影響について学んでいくほど、こうした子ども達の様子を気にせずに過ごすことができなくなっていった。結局、不安の中で子育てしていることが苦しくなり、石川県へ家族で移住。地元には、持ち家もあり、仕事もあり、孫を愛してくれる私の両親もいたため、移住への決断に至るまでに約一年の歳月を要した。

移住までの間、私と夫は何度もお互いの価値観に向き合い対話してきた。震災から数か月経ったときに「これから何を大事に生きていこうか？」という私の漠然とした問いに、夫は、「自分たちの食べるもの、飲む水、着るもの、電気などの使っているエネルギー、それぞれがどこか知らないところからやってくるのではなく、できるだけ近いところで分かるように生活をしていきたいよね。そうした生き方を子ども達に見せていくことができたらいい。」と静かな口調で語ってくれた。原発事故が起こるまでは、どんなことにも、それがどこで作られているものなのか気にもかけなかった私。そのため、夫の目指す生き方とは、深く私の心に反省とこれからの未来に希望を持たせるものであった。

小松市でシェアしてともに暮らしている家族も、同じく震災後に東京から移住している。これからの生き方の目指す思いが同じであったため、出会った当初から他人とはとても思えず、身内であるような感覚。一緒に暮らしていくという発想も、自然と出てきた。私たちは、畑を持ち、自分たちで食べる分はできる限り作るよう努力し、水は山から汲み、エネルギーも今後自然エネルギーで賄うことができたらと思っている。

私たちの古民家の名前は「シェアハウスににふに」と命名した。平仮名で書くと可愛い感じがするが、実は仏教用語「而二不二」からヒントを得て付けた名前だ。これは、一つのことでも見る角度によって異なる面があり、異なっていることでも本質的には一つであるという意味である。毎週木曜日に、この場所を地域開放し、町内の方々、主に一人暮らしのご年配の方に声かけをして憩いの場として利用できるように工夫している。「はねのわカフェ」と名付

けたその会は、多い時で二十人ほどの方が集い、昔話に花を咲かせ、笑いが絶えず賑やかだ。助産院を併設していることもあり、赤ちゃん連れで来られる母子もいて、赤ちゃんからご年配の方まで、様々な年代の方々が混ざって過ごす時間は、一昔前にあった地域の在り方なのではないかと感じる。

　こうして一歩一歩、理想の生き方が形となっていくことも、たくさんの人とのご縁と支えがあってこそのこと。これからも、地域に根付き、子ども達にしっかりとした希望を見せていけるように歩んでいきたい。

自己紹介
村上佳子　むらかみけいこ
一九七九年群馬県生まれ。娘二人の母親。
助産師・保健師・看護師・イトオテルミー療術師。「くじら助産院」「ないろ療術所」運営。趣味である打楽器の演奏を活かして、「福島の民話を語る会」に所属し、朗読劇「空の村号」では効果音などの音楽を担当。「シェアハウスににふに」にて、二〇一八年から住居の一室を使用して、福島県・関東の親子中心に滞在型の保養活動も行っている。
住　所
石川県小松市埴田町ト六―一
連絡先
〇九〇―六〇三四―二三〇九

真宗豆知識

悪魔と鬼神

　お釈迦さまがさとりを開かれる時、悪魔からの誘惑を受け、これを撃退した、という話はお聞きになったことがあるかと思います。

　悪魔というとおどろおどろしく聞こえますが、古い仏教経典の中で、お釈迦さまはこの悪魔の率いてきた軍隊を、欲望、嫌悪、飢渇、妄執、ものうさと睡眠、恐怖、疑惑、みせかけと強情、誤って得られた利得と名声と尊敬と名誉、自己をほめたたえて他人を軽蔑すること、と呼んでいます。これらはすべて、私の内側から起こってくる欲望で、仏教で煩悩と呼ばれるものです。

　また、お釈迦さまを悪魔の三人娘が誘惑するというお話もありますが、この三人娘の名前は、愛執と不快と快楽です。こちらも同じく煩悩になります。このように、仏教が説いている悪魔とは、私たちが思っているような恐怖の存在ではなく、私を内側から惑わせるものなのです。

　親鸞聖人はたくさんの言葉を残していらっしゃいますが、その中に悪魔という言葉は僅かしか出てきません。それも、仏の威徳に恐れおののき帰依するというかたちで登場しています。多くの仏教にとって、煩悩は消し去るべきものでしたから、多くの仏教経典の中に、煩悩のことが詳しく説かれています。しかし親鸞聖人の教えは、煩悩を無くそうというものではありませんから、煩悩、すなわち悪魔に関する言葉が少ないのです。

　一方で、親鸞聖人は鬼神という言葉はよく使われています。仏教用語の中に鬼神という言葉はありません。では親鸞聖人はなにを鬼神と呼んでいたのでしょう。

　親鸞聖人は鬼神に善鬼神と悪鬼神がいると言っています。日本は仏教伝来以前から、多くの神々と共に生活していた国でした。私たちを守ってくれる神もいれば、災いをもたらす疫病神の様な神もいます。親鸞聖人は、これら日本に古くから伝わっている神々を、鬼神とおっしゃっているようです。善鬼神はもとより、悪鬼神でさえも、念仏を称えるものを守ってくださるというのが、親鸞聖人の日本の神々との関係です。

　この念仏を称える者と鬼神の関係は、インドでの仏教とバラモン教の神々である諸天との関係と同じです。浄土真宗の寺院にはありませんが、他宗派のお寺に祀られている帝釈天や吉祥天などの諸天は仏教以前からインドで信仰されて生きた神々です。インドでの神々との関係を、親鸞聖人は日本にも取り入れて、鬼神とされたのでしょう。

（淨）

和讃（わさん）に学ぶ　第五十六回

徳法寺　杉谷　淨

仏と衆生（二）

親鸞聖人は阿弥陀如来のことを「光如来」といわれます。この「光」とは「世の盲冥をてらすなり」と和讃に詠われているように、私たちを照らして真実を見せて下さる智慧のことです。ここにある「盲冥」に親鸞聖人は「めしいくらきもの」と左訓を振っています。これは「目が見えないものに光を当てて下さる」という意味と同時に「目が見えないものであると教えて下さる」という意味もあります。

この智慧が誰に当てはまるのかを、和讃では次のように言われています。

一切の有碍にさはりなし
光沢かふらぬものぞなし

その人の個人的な問題や資質に関係なく、すべての人に当てはまるということです。

そしてこの智慧に照らされた利益は「一切の業繋ものぞこりぬ」と言われています。この「業繋」に親鸞聖人は「罪の縄に縛らるるなり」と左訓を振っています。どのように罪の縄から解放されるのかは次のように詠われています。

かならず煩悩のこほりとけ
すなわち菩提のみづとなる
こほりとみづのごとくにて
こほりおほきにみづおほし
さはりおほきに徳おほし

この水と氷の例えは、天台宗の「無明変じて明となる、氷の融けて水となるが如し」という教えからきています。ただし、天台宗では「さとりが開かれるということは、氷が解けて水になるようなものである」という意味であるのに対して、親鸞聖人は「智慧に照らされると煩悩が徳に変わります。ですから、煩悩が多いほど、徳も多くなります」と、同じ例えを使ってはいても、内容は大きく変えています。

親鸞聖人以前の浄土教では、私がどれだけ罪が深くても、阿弥陀如来の徳はそれをはるかに上回っているのだから問題にならない、というものでした。これは、僅かな汚水など海に入れば、混ざって消えてしまう、という例えで表されます。

親鸞聖人はこのような阿弥陀如来理解を踏襲しつつ、自分の罪の大きさを知れば知るほど、それがそのまま大きな徳となるという、独自の教えを展開していきました。ですから、智慧も「功徳大宝海」と海に例えますが、煩悩も「生死の苦海」と同じく海に例えているのです。

親鸞聖人以前の浄土教は「あなたがどれほどの罪を犯そうとも、死後阿弥陀如来が必ず救ってくださいます」という教えでした。この教えは無条件ですべての人を救うことができる教えではありますが、これが事実であるという保証はありませんから、ひたすら信じ込むしかありません。ところが、智慧によって自分の罪業がそのまま徳に変わることを実感できたならば、救いを死後に求める必要は無くなります。自分の人生に目を背けることなく生きていくことができるのです。このように具体的な救いを与える智慧を、親鸞聖人は「仏」と呼んだのです。

『心の相談室』

毎月第四土曜日
午後三時～五時
東別院横
「いちょう館」二階
相談無料

日常生活でのいろいろな悩み、家族のこと、友達のこと、学校のこと、仏事の疑問等を、僧侶がお聞きします。

杉谷淨のラジオ案内

十月二日(火)
十一月六日(火)
十二月四日(火)
FM-N1(七十六・三MHz)で午後一時半から一時間放送します。番組名は「生活一番シャトル便　住職のよもやま話」です。再放送は放送日の午後十一時と土曜日の朝七時からの二回です。インターネットでも聞けます。

映画の紹介

「ナミヤ雑貨店の奇蹟」

もっとも泣ける東野圭吾作品

一九六〇年代後半、とある商店街の中心部に、一人の老人が経営する雑貨店があった。その店の名は、「ナミヤ雑貨店」。この雑貨店は本業とは別のことで地元では有名だった。それは、店主による人生相談だった。

閉店後のシャッターの郵便投函口から相談の手紙が投げ込まれる。するとあくる朝、回答の手紙が玄関脇の牛乳箱に入れてあるという具合だ。もちろん手紙を読んだ店主が、夜通しかけて返事を書いているのである。つまり相談者は、顔も見られず、素性も一切明かさずに人生相談に乗ってもらえるというわけだ。

この店のおかげで、多くの人々が貴重なアドバイスを受け、生きる勇気を与えられた。そして、その中には後に身分を明かしてお礼の手紙を書いてくる人もいた。

やがて店主は亡くなり、その雑貨店も時代とともに忘れ去られていった。が、その店舗だけは空き家となって商店街に残っていた。

時は流れ二〇一二年となった。コソ泥をして逃げ場を失った不良少年三人組が、この空き家に迷い込んだ。そこで彼らは、奇妙な現象を目の当たりにする。シャッターの投函口から相談の手紙が投げ込まれたのだ。慌てて戸外を見渡すが、人影はない。

そこで少年たちは突拍子もないことを始めた。その手紙に返事を書き始めたのだ。するとそれに応じてまた手紙が投げ込まれた。彼らは返事を書きながら、やがてある重要なことに気が付く。それは、様々なペンネームで投函されてくるそれらの手紙が、どれも「過去から」投げ込まれているということだった。

魚屋ミュージシャン。七十年代初頭、ビートルズ解散直後、彼は音楽に生きるか、家業の魚屋を継ぐか迷っている。少年たちは、彼に音楽を続けることを勧める。なぜなら、彼の曲が後に有名になることをよく知っていたからだ。

迷える子犬。クラブでホステスを務める彼女は、生活のために金持ちの愛人になるかどうか迷っている。少年たちは、愛人になることをやめ、経済の勉強をするように勧める。ときは八十年代のバブル経済が始まる直前だ。彼女は不動産の買い替えなど的確なアドバイスを受け続け、ビジネスで成功し巨額の富を得る。

物語としては、ここで終わっても十分面白いのだが、さらに思わぬ方向に展開していく。魚屋ミュージシャン、迷える子犬の成功物語は、一つの場所へとつながっていくのだ。そこはなんと少年たちが育ったところであり、大切な場所だった……。

今は商売そっちのけで他人の悩みを聞き続けるような人はいないかもしれない。インターネットやSNSなどが全くなかった時代、それでも人々は手紙というシンプルな手段で深くつながることができたとすれば、それはまさに奇蹟といえるのだろう。

ガリレオ・シリーズなど、推理小説で有名な東野圭吾原作の映画化である。東野作品は、巧みなトリックに加え、どこか人情味があった。それに対し、本作は推理的要素は全くない。にもかかわらず、本当はずっとこんな作品が書きたかったのではないかと思わせるほどよくできていた。

主演にHey! Say! JUMPの山田涼介。雑貨店の店主を西田敏行が演じている。二〇一七年作品。

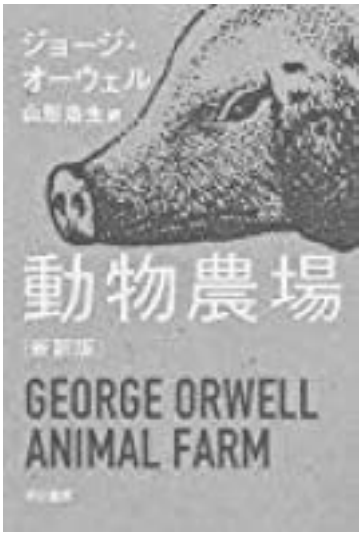
徳法寺のホームページのご案内

「僧伽」のバックナンバーや報恩講、春秋彼岸の案内、お講の案内、学習会のレジュメ、交流広場などを載せています。アドレスは http://tokuhou-ji.com/ です。是非覗いてみてください。

本の紹介

『動物農場』

ジョージ・オーエル
山形浩生訳
早川書房



この小説は一九四四年、イギリスとソ連が同盟関係にあった時代に書かれた。あからさまな共産主義批判が災いして、なかなか出版できなかったという。ところが冷戦時代に入り、むしろ東側を批判する書として、一転好意的に受け入れられたと言われている。

内容は、人間たちから主権を奪い取った動物たちが、自分たちの手で農場の運営を始めるという寓話である。しかしそこで起こったことは、人間に代わって豚たちが農場を支配するという事態だった。

登場する豚たちは、それぞれ当時のソ連の実在の人物たちをモデルにしている。例えばこの小説において農場の支配者（支配豚？）となるナポレオンという名の豚は、スターリンを表している。そしてどう猛な犬たちはＫＧＢ（秘密警察）を表しているという具合だ。そればかりかトロツキーやレーニンに相当する豚も出てくるという念の入れようである。

理想を目指した国家が、いかにして恐怖の支配する国に変わっていくかが、寓話という形をとって見事に描き切られている。イギリス人らしいユーモアで散々笑わされた後、背筋が凍る結末が待っている。そういう意味でも十分楽しめるパンチの利いた一冊だ。

理想社会をこの世に建設するには、われわれ人間はあまりに不完全な存在なのかもしれない。理想とは、願われるものであっても、実現されるべきものではない、と言ってしまえば言い過ぎだろうか。

私はこれを読んだ後、かつて自国を地上の楽園と称し、帰国を促す運動を行った国のことを思い浮かべてしまった。先日アメリカと首脳会談を行ったあの国である。（それは必ずしもさる人物の体形からの連想ではない。）

地上の楽園、これほど魅惑的だが嘘くさいものがあるだろうか。

ちなみにこの小説は、七十年代のプログレッシブ・ロックの代表格ピンク・フロイドのアルバム「アニマルズ」のモチーフになったそうである。懐かしくも嬉しい発見だった。

各寺のご案内

◆常　徳　寺
金沢市寺町
五丁目一番二九号
℡二四一―二六四九

◎報恩講
十月十日（水）
お逮夜　午前十時
お日中　午後一時半
法話　佐々木五六師

◆徳　法　寺
金沢市野町
二丁目三二―四
℡二四一―五二一九

◎徳法寺仏教入門講座―インド仏教史
毎月二十一日
午後七時半より
講師　杉谷　淨
十月　釈迦伝説四
釈迦と信徒たち
十一月　釈迦伝説五
釈迦最後の旅
ご自由にご参加ください。
十二月、一月、二月は雪のためお休みします。

『サンガ茶話会』
毎月第一木曜日
午後三時～五時
東別院真宗会館内
囲炉裏の間
お茶とお菓子をいただきながら、お坊さんと気楽にお話できる空間です。相談というほどではないにしろ、ちょっと聞いてみたい、いろんな人と話してみたいという方大歓迎です。もちろん無料です。お気軽にご参加ください。

編集委員
西山　彰（常徳寺）
杉谷　淨（徳法寺）